

日本の近代演劇における中東世界のイメージ形成

: 三島由紀夫と寺山修司の事例

Dr. Naglaa F. Hafez
Associate Professor,
Banha University

ملخص البحث

توظيف التراث الإسلامي في المسرح الياباني الحديث : دراسة حالة مسرح موشيما يوكيو وتيرايااما شوجي

تأثر الكتاب اليابانيين المحدثين بالتراث الإسلامي وصوروه في أعمالهم الأدبية والمسرحية ، وخاصة حكايات ألف ليلة وليلة التي أبهرت الفنانين في جميع أنحاء العالم. ولكن ركز هؤلاء الكتاب في براعة تصوير المشاهد الحسية التي كانت تعد من المحرمات في أوروبا في ذات العصر. ظهر ذلك بوضوح في تأثر المستشرقين الغربيين و الأدباء كثيرًا بمشاهد الحب والعاطفة في "ألف ليلة وليلة" ، ونتيجة لذلك ، أعادوا إنتاج هذه المشاهد في رسم صورة حسية للشرق من خلال الترجمات الغربية لأدبيات الشرق الإسلامي. يطرح هذا البحث دراما "حكاية ملك الجزر السوداء" و "الشجرة الاستوائية" ليوكيو موشيما ١٩٦٠ ، ودراما شوجي تيرايااما "ألف ليلة وليلة: نسخة شينجوكو" عام ١٩٦٨. وكيف أدت صورة الترجمات الغربية التي عرضها المترجمون الغربيون صورة خاطئة لـ "ألف ليلة وليلة" مشوهة عن النص الأصلي ، ولكن ما فعلوه لم يكن سيئاً بالضرورة. فقد استخدم موشيما الرومانسية والإثارة وبراعة التصوير في عمله المسرحي وانشأ دراما من الخيال والتشويق والفانتازيا. ومن جانب آخر وظف تيرايااما ، الذي كان من رواد الفن الطليعي ، في "ألف ليلة وليلة" فكرة ساخرة للتعبير عن التغيرات الاجتماعية الدراماتيكية في المجتمع الياباني في مرحلة الستينيات.

【キーワード】

イスラーム文学、エロティシズム、前衛芸術、好色文学

1. 緒言

『千夜一夜物語』は9世紀から19世紀に至る長い時間に徐々にひとつの物語として形成され、口承と書承双方の経路によって民衆の間に伝承されてきたアラブ世界の一大文化遺産である。ヨーロッパでは、この物語は、フランスの東洋学者アントワーヌ・ガラン Antoine Gallan (1646年-1715年) がアラビア語の写本から、初めてフランス語に翻訳し、1704年から1717年にかけて出版された。ガラン版が現れてから『千夜一夜物語』がオリエンタリズム研究においてイスラーム世界のイメージを形成するのに大きな意味を持ち続けてきた。

『千夜一夜物語』の英語訳のバートン版 (1885 - 88) とそれに次ぐ仏語訳のマルドリユス版 (1899 - 1904) によって、好色文学のイメージが形成されたのであった。バートン版とマルドリユス版がアラビア語原典からの直訳として大いに評価されるようになったが、これは、この二版が純粋なアラブの郷土的表現に富み、種々の見地からして最も完全なものであると指摘されたためであった。しかしながら、バートン版とマルドリユス版にはアラビア語原典には存在しないエロティックな場面が挿入されており、この二版によって、『千夜一夜物語』は「好色文学」だというイメージが強調されるようになった。

日本においては、『千夜一夜物語』がはじめて紹介された明治初期からしばらくは、日本語訳や研究はヨーロッパ諸語への翻訳に基づいてなされてきた。また、第二次世界大戦以前は校閲制度と社会的規範のため『千夜一夜物語』におけるエロティシズムの場面が削除された。戦後初期にその2版の日本語訳を読んだ三島由紀夫 (1925-1970) と寺山修司 (1935-1983) は好色文学としての『千夜一夜物語』のイメージを受け継ぎ、自身の文学において『千夜一夜物語』のエロティ

シズムを大いに活用したのであった。

本論稿では以下の点を検証する。

2. イスラムにおけるエロティシズムの概念

イスラムの性的言説 (sexuality) においては、エロティシズム行為が必ずしも、タブーとして捉えられなかった。その中で性的快楽 Sexual pleasure が重視されてきた。女子作家の (salwa Elni ‘imī) は「私たちは性的純粋化 (Puritanism) という構想を欧米世界から受け継ぎ、本来、イスラムの文化では性的罪といった概念は存在していない。アラブの文化では身体や精神にとって、性的行為が欠かせないことがある。性は宗教的というよりも文化的な意義を持つ。また、アラブの文化では、欧米のように身体と精神の間で区別がなく、同一のものとして扱われている。」と指摘している¹。

If eroticism invades literature, art, everyday life, it is because it is integrated in the Islamic view of the world and is situated at the heart, not at the periphery (周辺), of ethics².

それゆえに、『千夜一夜物語』のアラビア語原文では性愛の描写が豊富に見られる。特に『千夜一夜物語』においては性と愛との間に相違が見られない。

しかしながら、欧米ではジョルジュ・バタイユのエロティシズムで言うように「人間精神は、最も驚くべき禁止命令にさらされている。たえず自分自身を怖れている。自分自身のエロティックな運動によって脅かされているのである。聖女は怖しげに遊蕩児から顔をそむける。彼女は遊蕩児の恥ずべき情念と、彼女自身の情念とが同一のものである

¹ S., El-Nīmy, “Burhān el-‘Asal”, Beirut, 2007. "سلوى النعيمي" برهان العسل

² A., Bouhdiba, Translated by A., Sheridan, “Variation on eroticism: misogyny, mysticism and ‘mujūn””, Sexuality in Islam, Routledge & Kegan Paul, London, 1985, p.127

ることを知らないのである³。」と言う。バタイユは禁欲は美德だと見なされるキリスト教の欧米文化遺産から出発し、エロティシズムの行為をタブーな性的行為として分析している。したがって、イスラムの性的概念は欧米のそれと違うのである。

一方、時代と共にイスラムの言説においては、女性に対する見方が矛盾してきた。女性蔑視(misogyny)、神秘(mysticism)、エロティシズム(mujūn)などのあい反する見方が入り混じっている。このような女性に対する見方はアラビア半島の慣習に由来すると言う研究者がいる⁴。要するに、イスラムの女性に対する様々な規範、例えば女性は猥褻の源(Fitnā)などがコーランに由来するのではなく、本来アラブの地域に由来する男性中心的・家父長的な規範である。

アラブ・イスラムの文化的遺産としての『千夜一夜物語』は一見、このような女性に対する否定的立場が見られる。例えば、そこでは女性の多くの淫蕩にまつわる逸話が含まれており、女性に対する呼称として一般的に「奴隷」"Jariya"が多く使われる。しかし、実際は女性の賢さや献身的なやさしさがその裏に書かれているのである⁵。

『千夜一夜物語』を好色文学とするイメージは、ヨーロッパの翻訳者がどのように原典を歪めたことで形成されたのか。

『千夜一夜物語』は、淫蕩の妻の不貞に激怒したシャハリヤール王がその腹いせに毎夜街の女性と関係を持ち、朝にはその女性の命を奪い取っていた。そうしているうちにシェヘラザードに出会った。彼女はシャハリヤール王に物語を語り始めると、その物語に関心を持った王に毎夜千一夜に続く物語を語っていた。

³ ジョルジュ・バタイユ、澁澤龍彦訳「まえがき」『エロティシズム』二見書房、1973年、p.4

⁴ A., Bouhdiba, Translated by A., Sheridan, "Variation on eroticism: misogyny, mysticism and 'mujūn'", Ibid, p.117

⁵ S., Al-qalamawy, *Alf Layla wa Layla*, Dar El-ma'arif, cairo, 1947, p.

欧米のオリエンタリストや文学者らは『千夜一夜物語』の巧みなエロティックな場面や愛の情熱を大いに感動した結果、『千夜一夜物語』のエロティシズムを再生産した。

3. 官能的オリエント：好色文学としてのイスラーム文学

の生産

杉田英明(1956-)によるとバートン版及びマルドリユス版とも、英仏の一般読者からは歓迎され、大成功を収めた。しかし猥褻表現の過多により原典自体の特徴ではない「官能的オリエント」というイメージが強調されている。これは日本においても全く同様であった。その結果、猥褻本・好色文学としての『千夜一夜物語』観が現在に至るまで広く一般流布している⁶。

このように、バートン版とマルドリユス版の影響を受けた作家の多くは、原典についての知識を持たぬまま、そこに存在していない表現や逸話を活用する 경우가少なくないのである。芥川龍之介(1892-1927)はバートン版の序話「シャハリヤール王とその弟君の物語」で王の留守に王妃や女奴隷たちが男奴隷たちと中庭で性の

きょうえん、饗宴を楽しむ場面の一節について、次のように賛美していた。

「例へば、亜刺比亜人の形容を其儘翻譯して居るのに非常に面白いものがある。男女のほうよう,抱擁を『釦が釦のあな,孔に嵌まるやうに一緒に

なった』とじよ,叙してある如き其の一つである⁷。」しかし、芥川が賛美したこの一文は、実はアラビア語原典にはない、バートン自身が挿

⁶ 杉田英明「好色文学としての『アラビアン・ナイト』明治末期～昭和前期のバートン版・マルドリユス版紹介(上)」東京大学大学院総合文化研究科地域文化専攻紀要第九号、2004年、p.2.

⁷ 芥川龍之介「リチャード・バアトン訳「一千一夜物語」に就いて」『芥川龍之介全集』第十一巻、岩波書店、1996年、pp.179-186.

入したものだった⁸。

このように、芥川龍之介を初め三島由紀夫などの作家らは『千夜一夜物語』の性的象徴及び無邪気な恋愛の描写に魅した。彼らは直接に『千夜一夜物語』のアラビア語の原文に当たったのではなく、バートン版とマルドリユス版の翻訳を読み、『千夜一夜物語』のイメージを形成した。その二版では『千夜一夜物語』におけるエロティシズムや官能的な場面が膨らませ、それはまた説話集の歪んだイメージに結びついていく。

4. 三島由紀夫と寺山修司が活用したイスラーム文学におけるエロティシズムについて

1945年、三島由紀夫は「黒島の王の物語の一場面⁹」を活用した短編小説を創作した。黒島の大王マアムウド王の子タルムウド王は、従妹ゾベイダを妻とし妃とした。五年を経てたとき、王は妃に勧められた酒を飲み、その深夜、眠りを装った。王は毎夜妻が睡眠薬の混ざった酒を飲ましているとの話が耳に入ったので、その夜酒を飲まず妃の足跡を辿ることにした。妃は身なりを整え、金色燦然とし硬玉の瞳がらんらんと輝いた獅子の彫像に向かい、口に呪文を吟き門を開けた。王は、妻が魔法使いだと知った。王は、妃がマスウドと名乗る見知らぬ情人の黒人男と連れだって林の下道へ行くのを認め、黒人男の喉を刺し殺したが、妃は魔法で水鳥に変身して王の追及を逃れる。元の姿に戻った妃は、情人の屍に呪文を唱えて蘇らせるとともに、宮殿内の王の下半身を大理石に変えた。

⁸ 芥川龍之介とバートン及びマルドリユスの原典アラビア語への挿入詳細について、杉田英明「好色文学としての『アラビアン・ナイト』明治末期～昭和前期のバートン版・マルドリユス版紹介（上）」東京大学大学院総合文化研究科地域文化専攻紀要第九号、2004年、pp.6-8.

⁹ 三島由紀夫「黒島の王の物語の一場面」『三島由紀夫全集 16』新潮社、2003年、pp.251-259.

三島由紀夫と寺山修司は自身の作品においてどのように『千夜一夜物語』のエロティシズムを活用したのか。

三島も寺山も『千夜一夜物語』を自身の作品に活用したのは、エロティシズムが大きな意味を持つと思われる。それに好色文学としてのイメージを受け継いだ彼らは『千夜一夜物語』よりも極端にエロティシズムが溢れる作品を書き上げている。

三島も寺山も『千夜一夜物語』におけるエロティシズムの要素を作品を制作する過程において用いた。『千夜一夜物語』は男女がまくらを共にした時に女性が話す短い物語の集まりであり、シェヘラザードが毎夜物語を語る背景には男女の性的情景が展開しているのである¹⁰。

三島は「岬にての物語」、「家族あわせ」や「鍵のかかる部屋」などのいくつかの小説と共に戯曲「熱帯樹」で『千夜一夜物語』の近親相姦やエロティックな挿話を活用したのであった。

三島は「熱帯樹」の成り立ちでは、以下のように論じている。

肉欲にまで高まった兄妹愛というものに、私は昔から、もっとも甘美なものを感じつづけてきた。これはおそらく、子供のころ読んだ千夜一夜譚の、第十一夜と第十二夜において語れる、あの墓穴のなかで快楽を全うした兄と妹の恋人同士の話から受けた感動が、今日なお私の心の中に消えずにいるからにちがいない¹¹。

寺山は自作において『千夜一夜物語』におけるそのエロティシズムを受容し、独自にそれを発展させた。作家自身の自由な翻案が多くあり、『千夜一夜物語』の原文からだいぶ逸脱したのではないかと思われる。

寺山は「千一夜物語 新宿版」1968年の広告では以下のように告

¹⁰ M. Yunus, "Nisaa' al-Qaṣr fi Alf Layla wa Layla", Majalat Wjihāt Nazar, August 2006.

¹¹ 三島由紀夫「熱帯樹」成り立ち『三島由紀夫全集 25』新潮社、2003年、p. 486。

げている。

奇想天外！アラビアンナイトの世界が新宿歌舞伎町に繰りひろげる詩と幻想とエロティシズム

5. 結語

欧米の翻訳者らは『千夜一夜物語』に対して、原文と歪んだ偽ったイメージを与えましたが、なしたことは必ずしも悪いといえない。彼らは『千夜一夜物語』の原文に新たな表現・側面やスペクタクルを添加した結果、国際的興味を集めたのであった。その中でも政治的な動機で特に『千夜一夜物語』のエロティシズムを膨らませたのである。

このように寺山も三島も『千夜一夜物語』を活用したのはエロティシズムが重要な要素であると思われる。

三島は『千夜一夜物語』におけるロマン性・官能性・美術性を独自の作品のために利用した。彼は戯曲「熱帯樹」において、『千夜一夜物語』で読んだ墓の中で快楽を全うした兄弟の近親相姦をベースに作品を仕上げたと言っている。肉体関係を持つまでに高まった兄妹愛はやはり三島の記憶の中からはいつまでも消えなかったと思われる。なぜなら、子供のころから『千夜一夜物語』を愛読し、読んだ物語の中でも最も甘美なものであったのはこのお墓の中で快楽を全うした兄妹の場面であると三島自身が述べているからである。

前衛芸術を目指した寺山は『千夜一夜物語』の中に当時を風刺する思想や彼自身が持っていた性の解放を見つけた。寺山は「千一夜物語 新宿版」で1960年代の日本社会における学生運動などの社会的不安定さを織り込んだ。寺山は社会を風刺する手段として独自の演劇を創作し、その際に『千夜一夜物語』の話を寓意として用いた。

澁澤龍彦は、エッセイ「インセント、わがユートピア」において、この三島の文章の同じ箇所を引用し、次のように述べている。「ガストン・バシュラールの『大地と休息の夢想』を読めば、墓穴や洞窟が子宮のアナロジーであり、保護された隠れ家としてのユートピアであることは、ただちに明らかになるだろう。このことと直接関係はないが、千夜一夜譚には、エロティックな象徴が数限りなく発見されるということも、ついでに書き添えておこう¹²。」と述べている。以上のように、エロティックな象徴が数限りなく発見される『千夜一夜物語』の中で、三島は何故これほどまでに兄妹の近親相姦にこだわった。近親相姦は三島にとって重要な題材の一つだが、「もっとも甘美なもの」が注意がひかれる。少年の鋭敏な官能に強く訴え魅了したのが、『千夜一夜物語』のなかでも兄と妹の禁じられた愛の物語であった¹³。

寺山は戯曲「千一夜物語 新宿版」の宣伝スローガンにおいて「私たちの「千一夜物語」は、怪奇と幻想、詩と真実をこそ引継ぎはしても、登場人物たちは、なけなしの三文ヤクザやミストルコ、盲目ギターひきという名の悪魔から、プロレスラーアリ馬場、といったおなじみの連中ばかりでそのエロチシズムも日生劇場の上品さとはうってかわったものになることだろう。ここに、『絵本』の各章の書出しを、ほんの少しずつ紹介して予告篇に変えたい¹⁴。」と言う。ここで、寺山の言う「日生劇場の上品さとはうってかわったものになる」というのは、三島由紀夫の戯曲「アラビアン・ナイト」のことを指している。

三島由紀夫の『葉隠れ』において、「恋愛概念」はどのような位置づけなのか探してみる。英語に相当する”ラブ”をめぐり概念定義に

¹² 澁澤龍彦「インセントわがユートピア」『澁澤龍彦全集』第12巻、河出書房新社、1994年。p. 64-65

¹³ 松本徹「十歳の『アラビアン・ナイト』」前掲、p.172

¹⁴ 寺山修司「正月公演」『天井桟敷新聞』第四号、昭和42年10月9日、p.3.

関しては「恋愛」(Romantic Love)と「恋」(Kind of passion with sexual overtones but no love 「愛」という意味である。戦争まで若者はきちんと恋愛と性欲望を区別し、合理的に両方を生殖してきた。

結論

- 欧米の翻訳者らは『千夜一夜物語』に対して、原文と歪んだ偽ったイメージを与えましたが、なしたことは必ずしも悪いといえない。
- 三島は『千夜一夜物語』におけるロマン性・官能性・美術性を独自の作品のために利用した。
- 前衛芸術を目指した寺山は『千夜一夜物語』の中に 60 年代当時を風刺する思想や彼自身が持っていた性の解放を見つけた。

参考文献：

- A., Bouhdiba, Translated by A., Sheridan, *Sexuality in Islam*, Routledge & Kegan Paul, London, 1985.
- J.C., Mardrus, *Le livre des mille nuits et une nuit / traduction litterale et complete du texte arabe*, 16 vols., Paris : Charpentier et Fasquelle, 1899 - 1904.
- R., Burton *the Book of the Thousand Nights and a Night*, 12vols. London: H. S. Nichols, 1894. First edition, 16 vols., 1885-88.
- S., El-Nīmy, “Burhān el-‘Asal”, Beirut, 2007.
- 杉田英明「好色文学としての『アラビアン・ナイト』明治末期～昭和前期のバートン版・マルドリユス版紹介（上）」東京大学大学院総合文化研究科地域文化専攻紀要第九号、2004年。